

## 4 - 4 駿河湾周辺の微小地震活動

### Seismicity of Microearthquakes in the Vicinity of Suruga-Bay

名古屋大学理学部

Faculty of Science, Nagoya University

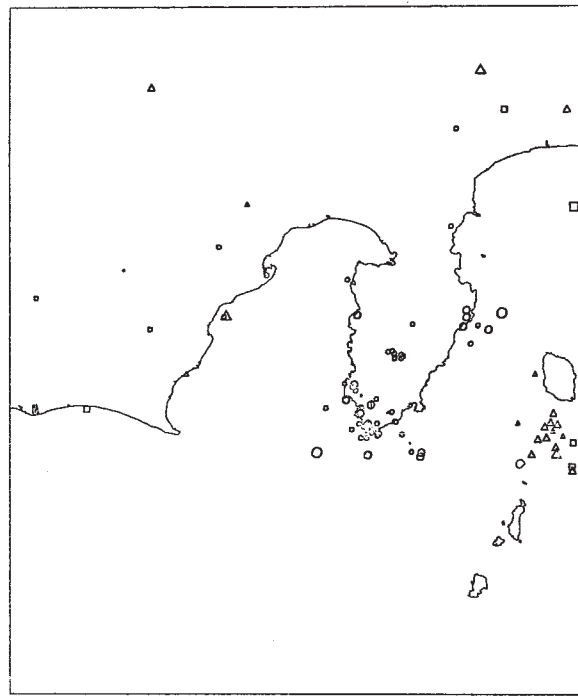
駿河湾およびその周辺の微小地震活動を調べるため、1975年7月より9月までの3ヵ月間、浜岡、三倉、宇久須、湯舟に臨時観測点を設け観測を行った。この他、名大理学部の常設観測点水見色、下賀茂、東大地震研究所の常設観測点、奥野、富士川のデータを使用した。浜岡、宇久須の両観測点はその後も引き続き観測を行なっている。

第1図はこの間に決定された微小地震の震源分布図である。この期間の微小地震活動の特徴を以下に列記する。

- (1) 駿河湾内では微小地震を含め地震の発生はない。このことは各観測点のS - P 頻度分布からも裏付けられている。
- (2) 静岡市付近にはかなり多くの微小地震の発生がみられる。震源は求められないが、水見色観測点でS - P が3秒程度の地震の頻度は非常に高い。
- (3) 伊豆半島沖地震の余震活動は依然活発である。
- (4) 天城山付近、伊東市付近、大島付近に群発性の地震が観測された。

第2図は宇久須および下賀茂における地震数の最近までの日変化を示す。伊豆半島東北部における群発地震活動と伊豆半島沖地震の余震活動が重なった形となっているが、宇久須ではS - P 時間の短い極微小地震の活動も目立っている。

なお7～9月の観測は東海大学海洋学部との協同観測として行われた。この観測記録の解析及び9月以降の観測には東京海上各務記念財団の援助を受けている。

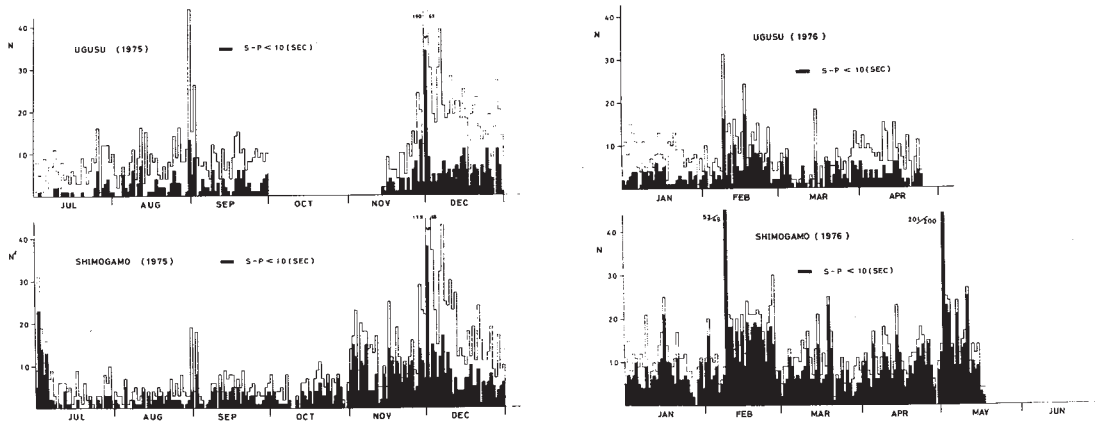


DEPTH 0 25 55 120 (KM) MAG. 1 2 3 4  
 ○ □ △ · ○ ○ ○ ○

JUL - SEP 1975

第1図 微小地震の震央

Fig. 1 Epicenters of microearthquakes.



第2図 宇久須, 下賀茂における日々の地震数

Fig. 2 Daily number of earthquakes recorded at Ugusu and Shimogamo stations.